



万里一空

御津中学校 校長室だより
令和6年7月19日 No.2

令和6年度 1学期終了式 式辞



今日で1学期が終わります。皆さんは、1学期はどんな学期だったでしょうか？私は、「今日はどんな1日になるのかな」とウキウキしながら毎日学校へ来ていました。また、本当に良い先生方や生徒たちに恵まれて、改めてこの御津中学校に赴任できてよかったと嬉しさを一日一日かみしめています。この1学期は、1・3年生は宿泊行事もあり、楽しい時間をあなた方と過ごすことができました。

1年生のオリエンテーション学習では、出発式で「荷物は左側に置きます。前に立った人が礼をしたら礼をします」と話しました。入所式の時には、学年全員が荷物を左側において「シーン」と静かに座っていました。また全員きちんと礼ができていました。「おっ御津中生に近づいてきているな」と実感した瞬間でした。

3年生の修学旅行では、流石最高学年と感ずることがたくさんありました。楽しみながらもけじめやモラルが守れていたこと、時間通りに集合できたこと、熱海駅で新幹線の停車時間が1分しかない中、重たい大きな荷物をもっていても全員が整然と乗車できたこと等、どの瞬間も素晴らしく感心しました。

2年生は、宿泊行事がありませんでしたが、2学期の職場体験学習での皆さんの活躍を楽しみにしています。また夏休み中から部活動では主役となります。御津中の顔です。頑張りを期待しています。

日常生活を振り返ってみましょう。皆さんは、この1学期に、どれだけ「できないことができるようになり」「わからないことがわかるようになった」でしょうか。「できないことができるようになる」「わからないことがわかるようになる」と嬉しいし、笑顔になります。人は学び続ける生き物です。何故なら、知らないことだらけで、未熟だからです。

私も、あなた方よりも長く人間をやっていますが、まだまだ未熟者です。校長としては1年目の新米ですし、わからないことだらけです。「もっとこうすればよかった」と後悔の連続です。未熟だから学ぶのです。知らないことがいっぱいあるから学ぶのです。生きるということは学び続けることだと思うのです。

さて、明日からは夏休みです。授業はありません。時間はたくさんあります。ですから今日は、「パラダイムシフト」について話したいと思います。ここでいう「パラダイムシフト」はお笑い芸人名やバンド名でもありません。「パラダイムシフト」とは、当たり前だと思われていた考え方や概念が、劇的、根本的に変化することを指す言葉です。その例としてイギリスの詩人、ステイーヴィー・スミスの詩を紹介します。



「わたしは岸辺で海を見ている。と、遠く波間で手を振るひとがいる。

そこでわたしは、波間のひとに手を振り返す。

そして、やがて波間のひとのことは忘れて、砂浜の貝を拾いだすかもしれないし、ポットから注いだ紅茶を飲むかもしれない。そうして・・・ その後、わたしは知らされるのだ。

波間で手を振っているかのように見えたひとは、実は、溺れて助けを求めているのだと。

助けることができなくなって、から。」

「手を振っているのは挨拶だ」という思い込みが邪魔をして、相手が本当に伝えたかった「助けてくれ」というメッセージをキャッチすることができませんでした。もしメッセージをちゃんとキャッチできていれば、助かったかもしれません。

今から400年前、天動説が当たり前だった時代に、地動説が唱えられた時、誰も地球が自転しているなんて信じませんでした。これがパラダイムシフトです。これからの世界で、重要なキーワードの一つであり、あなた方一人一人に「物の見方や捉え方を変える力」が求められて来るようになります。

これから始まる夏休みをうまく活用し、当たり前や思い込みの中から抜け出し、じっくりと「真実を追究する楽しさ」を味わってほしいと思います。そして、元気に成長した姿を2学期に見せてください。

最後に3年生、あと84日登校すると入試が始まります。夏を制する者が受験を制します。問題集と正対し、やって、やってやり抜きなさい。その努力の成果は11月に行われる実力テストに確実に表れます。

私は、中学校教員32年間の中で17回3年生を担当しました。その中で1つだけ言える真理があります。それは、「努力して後悔した生徒はいない。努力しないで後悔した生徒はいる」と言うことです。

「後悔先に立たず」「力をつけるときは今」です。



令和6年7月19日

峯村 邦泰